

社会連携報告書

2021（令和3）年度

鈴鹿大学・短期大学部
COC（地域連携）・国際交流センター

目次

はじめに	1
1. 高大連携	2
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校との連携事業	
久居高等学校との連携事業	
三重県高等学校商業教育研究会「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」	
2. 学生による地域活動	6
グローバルスタディ	
津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア	
こどもボランティア部	
国際地域学部「すす活」プロジェクトについて	
三重県立みえこどもの城でのイベント開催	
3. 地域連携	11
公開講座	
COC+ 高等教育コンソーシアムみえ	
SUZUKA 産学官交流会	
鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業	
鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」	
みえアカデミックセミナー	
あそび広場「すすちゃん」	
鈴鹿市観光まちづくり委員会	
鈴鹿学	
4. 国際交流	21
海外留学支援プログラム	
国際交流	
巻末資料	23
学外委員会での活動一覧	
2020 年度公開講座一覧	
協定先一覧	

はじめに

本学 COC・国際交流センター（以下、本センター）は、地域連携および国際交流と大きく二つの部門を設け、地域、企業、行政、国際交流にかかわる様々な事業を展開しています。

地域活動、こども教育、語学、ビジネスなどにかかわる社会活動や問題解決に対して、専門的見地を持って各団体と積極的に連携・協働を行います。具体的に、高大連携、学生による地域活動、地域連携と三つのカテゴリーに基づいて、既存事業の革新性や新たな価値を創造する新規事業の可能性を重視し、運営しています。一方、地域の中の「世界」をみつめるという本学の特色を担う部門の一つとして、国際交流部門は存在します。そこにおいて、海外協定校との学術交流はもちろん、学生の相互派遣などの事業も担っています。

2021 年度はコロナ禍の終息ではなく、ウィズコロナへと軌道修正する一年でした。細心の注意を払いつつ、本学で学んでいる学生だけではなく、地域社会のために何かができるか、様々な試行錯誤を繰り返ししながら、活動してまいりました。鈴鹿市社会福祉協議会との連携事業で災害時のサテライト設置準備、より多くのニーズに応えられるため 30 コマ余りに及ぶ公開講座の開催などなど事業を予定しておりましたが、いずれも中止や縮小を余儀なくされました。一方、人と人との触れ合い、学び合いの喜びを実現できた事業がありました。短期大学部こども専攻の学生が主体的に活動した「三重県みえこどもの城」や、「みえまちキャンパス」で優秀賞を獲得した国際地域学部観光コースの学生による「すず活」はその一例です。そのほか、また本冊子を通してご確認いただければ幸いです。

今後、本学の強みである提案力とフットワークを生かし、三重県・東海地方の課題解決と魅力形成に、微力ながら取り組んでいく所存です。どうぞご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁

事業名：鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校との連携事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部と鈴鹿高等学校は2015年に「高大連携に関する協定書」を締結していましたが、鈴鹿高等学校が「幼児教育コース」を創設するに際し、2019年に連携協議会を開催し、高校・大学が連携し、高校2年～大学4年（あるいは短大2年）の長期間の一体的な教育観に支えられたよりよい教育を展開することで、幼児教育・保育を広く深く学んで実力ある幼児教育・保育者の育成を目指すことにしました。

そして、高大連携協定の事業の一つとして、2021年度より、鈴鹿高等学校「幼児教育コース」2学年の「総合的な探究の時間」に、本学教員の出張授業を組み込んだ内容で実施しました。

■活動内容と実績

鈴鹿高等学校2年の「総合的な探究の時間」（木曜午後）で、大学もしくは高校で6回の出張授業を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、当初計画していた日程と異なりますが、最終的には6回すべて実施することができました。

具体的な活動実績は以下の通りです。

5月6日 「保育園及び幼稚園の仕事・1日の生活」（田口鉄久大学教授）

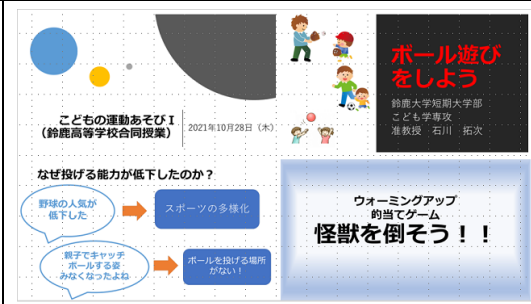
10月28日 「ボール遊びをしよう」（石川拓次短大部准教授）

12月14日 「にじみ絵の協働制作による幻想的な世界を体験しよう」（真下賢一大学准教授）

2月17日 「『音楽』ってなんだろう？」（みやざき美栄短大部准教授）

2月24日 「こどもを取り巻く環境」（田中裕子短大部助教）

3月10日 「インクルーシブ教育」（犬飼和夫大学准教授）

	
パネルシァター実演（田口）	ボール遊びをしよう（石川）

	
にじみ絵の協働制作（真下）	手遊び（みやざき）
	
ジャンケン汽車ポッポ（田中）	合理的配慮（犬飼）

■今後の計画

2022年度は、2年生の総合は今年度実施した内容をさらに充実させて継続し、3年生の総合は新たに実施します。

■担当者

担当 こども教育学部 川又俊則（学部長）

連絡先 メール t-kawamata@suzuka.ac.jp

事業名：久居高等学校との連携事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は、2014年に締結された「高大連携協定」に基づき、2019年度から三重県立久居高等学校に設置された保育者をめざす生徒のための高大連携科目「幼児コミュニケーション」を高田短期大学および久居高等学校と分担し担当しています。

2021年度については、下記の3つの目標を設定し、本学の教員6名が下記の分野を担当しました。

- (1) 保育者になるための、基礎的なスキル・知識を養うこと
- (2) 保育者の資質として、子どもへの愛情、保育の仕事への情熱、社会人としてのマナー、人間性を育くむことを通じて保育を好きになってもらい、興味関心を伸ばすこと
- (3) 子どもの発達や保育に関する知識、子どもとのコミュニケーション方法、保育技術など、実習を交えながら学習すること

■活動内容と実績

久居高等学校3年の「幼児コミュニケーション」(金曜午前)で、久居高校およびオンデマンド型の遠隔授業として6回の出張授業を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、当初計画していた日程と異なりますが、最終的には6回すべて実施することができました。

具体的な活動実績は以下の通りです。

- 4月23日「子どもの発達1ー乳児期ー」on demand (齋藤信准教授)
- 4月30日「子どもの発達2ー幼児期ー」on demand (川俣理恵准教授)
- 5月14日「保育教材2ー折り紙ー」(田中裕子助教)
- 10月1日「職業意識・マナー」(石川拓次准教授)
- 10月8日「保育に必要な国語表現」(田口鉄久教授)
- 11月26日「子どもの音楽表現と保育」(みやざき美栄准教授)

■今後の計画

引き続き、久居高等学校からの学びのニーズに応えつつ、久居高校の生徒にとってより充実した学びとなることを目指し、事業展開を進めていきます。

■担当者

担 当 短期大学部 長澤貴(学科長)

連絡先 メール t-nagasawa@suzuka.ac.jp

事業名：三重県高等学校商業教育研究会「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」

■活動の目的と経緯

目的： 県内商業科教員のマーケティング・ビジネス経済分野の専門性を高め指導力の向上を図るとともに、当 該分野での本県のレベルアップを推進するためのリーダーを育成する。定期的に他校教員と研修することで連帯感を築き商業教育全体の活性化に資する。

経緯： 令和元年 6 月 28 日 三重県高等学校商業高長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書締結、令和 2 年 4 月から「マーケティング・ビジネス経済分野指導者育成講座」を実施、鈴鹿大学教員が講師として参加しています。

背景： 平成 30 年 3 月 30 日、新学習指導要領が告示され、令和 4(2022)年度以降の入学生から必修科目ではないが、商業科では「観光ビジネス」が教科に加えられるため、三重県高等学校商業教育研究会では、新科目「観光ビジネス」指導に関する試みが始まっています。

■活動内容と実績

第1回：令和3年5月17日（月）14：00～、鈴鹿大学

三重県独自の商業高校版「観光ビジネス」カリキュラム・講義内容の方針を検討することを目標とすることを確認。

第2回：令和3年7月2日（月）14：00～、鈴鹿大学

「グランドデザイン」の中における観光ビジネスを確認／商業教育の基本理念（日本商業教育学会、2019）の確認／新学習指導要領（文科省、2019）の確認（要領改定の基本的な考え方）／三重県教育委員会の商業科の目標（三重県教育委員会、2018）の確認／県内各校・学科のグランドデザインの確認／先進事例の確認（西村・笠木、2021 より）

第3回：令和3年10月18日（月）14：00～、ハッレ倭（津市白山町）

ゲストハウスイロンゴ 白山町倉田麻里さん話題提供／各校検討シラバスの共有（一例）

高大連携の事例（広島経済大学と尾道商業の事例）／日本大学穴戸先生による観光ビジネスの整理／サードプレイスの概念について

第4回：令和3年12月6日（月）13：00～、和歌山大学観光学部

和歌山大学大浦先生による「観光学」理論説明：出かけていく観光から、受け入れる観光への変化。三重県商業科にとっての主なポイント：観光学は「観光産業」と「観光地域」に分かれるが、高大ともに後者が主流ではない、など。



第5回：令和4年3月4日（金）14：00～鈴鹿大学

2021年12月5日和歌山大学観光学部で研修会

1年間の成果のとりまとめ（『三重の商業教育』への掲載）

■担当者

担 当 国際地域学部 国際地域学科 地域コース（観光）教授 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：グローバルスタディ

■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会実現に向けた取り組みとして、国際経験の豊富な留学生・日本人学生を地域の幼稚園、小・中・高の県内教育機関、行政、国際交流団体等に派遣しています。

本事業は、地域の皆様に外国に対する知識と理解を深めていただくためだけでなく、参加する本学学生の自己啓発を促すための「教育の場」としても位置づけています。学生たちが本学で学ぶ国際学の専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

■活動内容と実績

- ・通年 国際交流・異文化理解活動の実施

昨年度同様、今年度も新型コロナウイルスの影響により、1回のみの開催となりました。ネパール人留学生、韓国人留学生による自国の文化について話をする会を小学校での国際交流授業として行いました。学生たちは、母国の文化や習慣などを説明するためにパワーポイントなどで視覚資料を作成し、写真を見せながら発表し、ネパールの学生は自国の遊びを紹介しました。小学校の児童のみなさんからはけん玉などの日本の遊びを紹介してもらい、交流しました。



■今後の計画

引き続き、県内教育機関、行政、国際交流団体等からの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなることを目指し、事業展開を進めていきます。国際交流協会をはじめ、様々な団体との国際交流を検討しています。

■担当者

担 当 留学生教育支援センター 上田 千華

連絡先 メール ryuugakusei@suzuka.ac.jp

事業名：津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア

■活動の目的と経緯

2003 年度後期から本学学生による「津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア」を実施しています。当時の校長の「気軽に小学校に手伝いに来てくれる大学生がいたら助かるんやけどな～」という一言から始まり、16 年間続いており、今もなおその活動が継続しています。活動内容は、こどもたちの学習を支援することが中心で、大学の授業の空き時間を利用して参加できるボランティアです。これまで延べ 300 名以上の学生が参加しました。

■活動内容と実績

学期の始めに鈴鹿大学でボランティア説明会を開き、千里ヶ丘小学校の担当の先生から、小学校の概要・特徴、こどもたちの様子、ボランティア活動の内容、注意事項などの説明があります。その後、学生は初回時に小学校に出向き、担当の先生から学校に着いてから帰るまでの流れや施設の説明、担当する学年・クラスの様子、実施報告書等の記入方法などを教えてもらい、その後、それぞれの計画に従ってボランティアに参加します。

学生は、こどもたちから「先生」と呼ばれ、授業の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、運動会などの行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍していきました。中には、時間さえあれば小学校に出向き、まるで講師のように職員室に出入りする学生もいます。

千里ヶ丘小学校の校長先生からは、「こどもたちが安心安全な学校生活を送るためには、多くの大人たちが目配りをする必要があり、学生たちにボランティアに来て頂けることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、礼儀正しく、こどもたちに寄り添って面倒をみってくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。今は、地域のさまざまな機関が連携し、互いに助け合っていくことが求められる時代。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会のある場としてほしいです」という感想を頂いており、小学校と大学双方にとって有意義な取り組みであると考えています。



■今後の計画

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響で活動が実施できませんでした。2021 年度は新たな体制で、取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担 当 こども教育学部 伊東 直人（授業科目「ボランティア活動」担当）

連絡先 メール n-ito@suzuka.ac.jp

事業名：こどもボランティア部

■活動内容と実績

こどもボランティア部では、例年、様々な社会的テーマをもとに、保育・教育の現場で「人形劇」を介したメッセージ発信や、地域ボランティアを行ってきました。

特に、毎年のように、「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」とタイアップし、丁寧なご指導を頂きつつ、交通事故被害者、犯罪事件被害者など、残された遺族に寄り添う活動のお手伝いをさせて頂いてきました。

但し、令和3年度は、昨年同様、コロナの影響もあり、活動自体を自粛せざるを得ず、「人形劇」そのものの発表には至っておりません。

その他の活動も、残念ながら自粛が相次いでしまいました。

○「しあわせの種 結び」：前述の「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」の人形劇。録画しておいた上映ビデオをもとに、部員たちは役割を分担して劇の準備に努めましたが、コロナ禍により中止を余儀なくされました。

○「児童福祉事業」：大学の近所である千里ヶ丘地区社会福祉協議会による「ちさとキッズフェスタ」が企画され、こどもたちの思い出づくりを手伝う準備をしていましたが、これも中止となりました。

○「学童ボランティア」：こちらも大学の近所である郡山小学校で、学童ボランティアを準備していましたが、やむなく中止となりました。

○「2021 三重県ふれあいスポレク祭、四日市ドーム」：スポーツ・レクリエーションを通じて、障がいのある人たちと交流し、自立と社会参加の推進や、社会の理解と認識を深めることをサポートする活動に参加表明していましたが、これも中止に。時期を変えて再開の兆しも見えましたが、それも中止に。

■今後の計画

このように、多くのボランティア活動の中止が相次ぎ、モチベーションを維持していくのはなかなか大変な状況のままですが、部員たちは自発的に部会を開き、何か他に活動することはできないか話し合いの場を設けるようにしています。来年度こそ、上記の各活動の再開と、新たなボランティア活動の開拓に向け、今が踏ん張りどころだと励まし合っているところです。

現在は、3年生1名、2年生4名が在籍。新年度に向けて、新入生の勧誘に向けた話し合いなどを進めています。一日も早いコロナ収束を心から願いつつ・・・

■担当者

担当：顧問・真下賢一

（鈴鹿大学こども教育学部こども教育学専攻）

連絡先 メール k-mashita@suzuka.ac.jp



命の大切さを伝える「人形劇」の様子

事業名：国際地域学部「すず活」プロジェクトについて

■活動の目的と経緯

2021年7月1日「一般社団法人鈴鹿市観光協会と学校法人享栄学園の相互連携に関する協定書」締結しました。その目的は、（１）地域に根ざした商工業及び農林業の活性化に関すること（２）まちづくり観光の推進に関すること（３）地域資源の活用に関すること（４）シティプロモーションに関すること（５）エコツーリズムの振興に関すること、です。

この目的に沿って、「すず活」の活動を進めています。

■活動内容と実績

内容：2021年10月「すず活」プロジェクト立ち上げ、観光ビジネスコースのゼミを中心に活動を実施しています。11月には、鈴鹿市西部地区取材、和菓子作り体験、12月には和菓子トーク、駐名古屋大韓民国総領事館の副総領事との懇談の様子を観光協会のインスタや、ウェブサイトなどで発信（韓国語、中国語、日本語）しています。本学に在籍する留学生が活躍している点が大きな特徴であり、今後再開がみこまれるインバウンド観光の準備のための活動として位置づけられています。

実績：2022年2月19日（土）四日市看護医療大学にて、高等教育コンソーシアム三重主催「みえまちキャンパス @ 四日市看護医療大学」をオンラインで開催され、「すず活」は優秀賞を受賞しました。このコンテストは、高等教育コンソーシアム三重の構成機関の学生が実施している地域活動を支援する目的で毎年実施されています。



（鈴鹿市内を取材する学生たち）

■今後の計画

観光ビジネスゼミだけでなく全学の多様な専門性を持つゼミでも参画をよびかけ、地元産業との連携企画へと発展させたいです。また、県内の他の高等教育機関との連携をはかり、学生にとって意義ある学びの場としていきたいです。

■担当者

担 当 国際地域学部 国際地域学科 地域コース（観光）教授 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：三重県立みえこどもの城でのイベント開催

■活動の目的と経緯

松阪市中部台公園の中にある三重県立の大型児童館「みえこどもの城」にて、2018年から毎年継続してイベントを開催しています。公益財団法人三重こどもわかもの育成財団のご協力のもと、未就学児から小学生低学年の一般親子を対象とした、学生が主体（企画・チラシ作成・実践）のイベントを継続しています。これまで、短期大学部こども学専攻の希望者が関わり、学習の集大成としてイベント実践を2年次後期に位置付けています。学生は、イベントを通し社会と繋がることによって、地域としての保育・教育の在り方、またその大切さを学びます。準備・実践を通して、一層コミュニケーション能力を高め、個々の得意分野を活かすことにより自身に繋げ、卒業後の生きる力に繋がります。

■活動内容と実績

【2018年度】『すずたんのおねえさんたちとあそぼう』学生数6名

【2019年度】『すずたんのおねえさんたちとあそぼう』学生数5名

【2020年度】『すずたんのおねえさんたちとあそぼう～クリスマス～』学生数5名

【2021年度】『すずたんのおねえさんたちとあそぼう

～まじょっこたちのハロウィンパーティー～』学生数9名

4月：希望者・日時決定

5月～：イベント企画

8月：チラシ作成

10月：リハーサル及び本番（イベント本番 10月30日）

コロナ渦であったが、感染症対策を徹底し、実施することが出来た。



■今後の計画

2022年度以降も、みえこどもの城のスタッフの方々にご助言をいただきながら、取り組みを継続していく予定です。

■担当者

担 当 短期大学部こども学専攻 みやざき 美栄（授業科目「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ」担当）

連絡先 メール m-miyazaki@suzuka.ac.jp

事業名：公開講座

■活動の目的と経緯

令和3年度は、受講者のニーズに幅広く応えるように、「スポーツ・健康」「体験・制作」「看護・ペット・音楽」「教養・語学」「管理栄養士国家試験準備講座」等々あわせて33講座を用意し、開講準備を整えました。が、コロナ禍によりほぼ中止となりました。大学のもっている専門知識を広く地域・社会に発信し、大学の知の開放、社会貢献を目的として次年度も継続実施する予定です。

■活動内容と実績

- ・通年 広報活動の実施（鈴鹿市報・学校向けチラシ・公民館等へのチラシ配置・HP掲載 など）
 - ・5～2月 令和3年度公開講座の実施（コロナ禍により1講座のみ開講）
- ★予定講座は別に巻末資料（2021年度公開講座一覧）参照

10:00～11:30
スポーツ選手の食事術
～成長期の身体づくり・持久力UP～
成長期のスポーツ選手に必要な身体づくりや持久力UPなどの食事術について学びましょう。
受講対象：中学生・高校生・保護者
講師 梅原 頼子

13:00～14:30
学校で求められる救急看護とは
実際に学校で起きた事例をもとに、学校救急看護について考えましょう。
受講対象：学校教員・教養教諭・看護教諭を目指す学生も大歓迎！
講師 小川奥由子

各講座 締切日: 8月1日 (日)
定員: 20名 (最少5名)
受講料: 500円 会場: 鈴鹿大学内

新型コロナウイルス感染症状況により、開催を中止することがあります。ご了承ください。

※次回は、8月28日 (土)・29日 (日) お子さま向け「製作・あそび」講座です。
詳しくは「鈴鹿大学 公開講座」で検索

お問合せ先：
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
tel: 059-372-2121 鈴鹿市郡山南663-222

お申込みはこちら

令和3年度は1講座のみの開催でしたが、梅原教授による「スポーツ選手の食事術-成長期の体づくり・持続力UP-」で、5名の受講者が参加してくださいました。

■今後の計画

次年度は、本学各専門領域に特化したかたちで、よりブラッシュアップした講座を提供する予定です。それに伴い、従来の広報活動を見直し、予想される講座対象者に対して積極的に呼びかけしていきます。

■担当者

担当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁
連絡先 メール i-kaku@suzuka.ac.jp

事業名：COC+ 高等教育コンソーシアムみえ

■活動の目的と経緯

三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。鈴鹿大学は、2016 年 3 月の高等教育コンソーシアムみえ設立と同時に活動に参加しています。

※2020 年度、COC+は、高等教育コンソーシアムみえへ機能が移転・統合されました。

■活動内容と実績

本事業には、以下のような活動があります。

- 1.企画運営委員会：コンソーシアムの企画、運営、評価、広報など
 - 2.FD/SD 部会：教育・職員の能力向上、専門人材の育成など
 - 3.地域貢献部会：地域貢献機能の充実、地域からの事業受託、学生の地域活動支援など
 - 4.教育連携部会：(1)三重創生ファンタジスタの養成、(2)単位互換協定に基づく授業科目の開放
- 本年度は、本学の学生による地域活動が、機関誌高等教育コンソーシアムみえ News に掲載されました。詳細は、こちらをごらんください。 <https://conso-mie.jp/pamphlet/>



Vol20.鈴鹿抹茶の取組



Vol21.三重バイオレットアイリスとの連携



Vol22.「すず活」について

■今後の計画

今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指してまいります。

■担当者

担当 国際地域学部 国際地域学科 地域コース（観光）教授 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：SUZUKA 産学官交流会

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学は SUZUKA 産学官交流会（事務局：鈴鹿商工会議所）のプロジェクトへの協力を行っています。例年は、芍薬を活用して鈴鹿西部地域の活性化をはかる「鈴鹿芍薬プロジェクト」など、地元の教育機関や企業と連携する事業を展開しております。残念ながら新型コロナウイルスが 猛威を振るった本年度も活動の自粛を余儀なくされました。

■活動内容と実績

役員会出席

第 1 回役員会

日時：令和 3 年 4 月 30 日（金）14：00～16：00

会場：鈴鹿商工会議所 4 階大ホール及びオンライン参加

新任役員の紹介と、今年度の事業計画についての審議。

第 2 回役員会

日時：令和 3 年 12 月 20 日（月）10：00～12：00

場所：鈴鹿商工会議所（2F）特別会議室またはオンラインでの参加

内容：

- ・SUZUKA 産学官交流会 令和 3 年度 事業計画・収支予算について
- ・鈴鹿芍薬プロジェクトについて
- ・メッセナゴヤ 2021 出展について
- ・交流事業 合同産学官交流フォーラムについて

交流事業 合同産学官交流フォーラム 「SDGs を学び・考える！」

日時：令和 4 年 3 月 4 日（金）13：30～15：00

オンライン開催

内容：

<第 1 部>13：30～14：00

講師：AGF 鈴鹿株式会社 代表取締役社長 塚本 祐司 氏

テーマ：森林整備・水資源の保全 100%以上を” ブレンディ®の森 “で涵養することを目指して

<第 2 部>14：00～15：30

講師：株式会社大川印刷 代表取締役社長 大川 哲郎 氏

テーマ： 中小企業が活躍する新しい時代の SDGs 経営

■今後の計画

引き続き産学官の各組織と、地域の課題解決にまつわる連携を構築します。

■担当者

担 当 国際地域学部 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は鈴鹿市社会福祉協議会と災害発生時における相互協力に関する協定書を締結しています。鈴鹿市内において災害発生時に、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動を行うことができるように相互に連携協力することで、被災者等の生活安定に寄与することが目的です。

■活動内容と実績

- ・7月20日 第1回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会 欠席（担当者・関係者が授業のため）
- ・7月6日 鈴鹿市社協職員による本学「鈴鹿学」での講義 実施（遠隔授業のため、資料提供）
- ・10月5日 鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 第1回学内会議 実施
- ・1月14日 第2回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会 出席（Zoom 会議）
- ・1月24日 鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 第2回学内会議 実施
- ・3月6日 鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 中止

今年度は、令和4年3月6日に実施予定であった設置・運営訓練に向けて、準備を進めました。本部を昨年度同様に Honda アクティブランドに置き、本学（鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部）は、サテライト会場を設置予定でした。サテライト会場設置は、鈴鹿市災害ボランティアセンターとして、初めての試みとなります。しかし、新型コロナウィルスオミクロン株の急速な感染拡大のため、活動中止を余儀なくされました（2月20日に活動中止を決断）。準備段階では、メール会議を重ねたうえで、鈴鹿市社会福祉協議会の方々に2度来学いただき、学内会議も行いました。入念に打ち合わせをし、提供場所は、B棟102，102を予定していました。

学生が関わるボランティアについて、今年度においては活動休止せざるを得ませんでした。鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業を継続し、来年度から新たに活動が展開出来ると良いと思います。

■今後の計画

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は積極的に防災への取り組みを行っていることをPRしつつ、今後何ができるのか、鈴鹿市社協や関連団体と協力して取り組んでいきたい。

■担当者

担 当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター みやざき 美栄

連絡先 メール m-miyazaki@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」

■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなベル』」は、鈴鹿市と連携し、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応えるとともに、学びの楽しさを実感し、生涯学習をさらに深めていくことを目的としています。

「まなベル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の4高等教育機関が行っている事業です。各教育機関を開錠として、それぞれの特徴を生かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供しています。

■活動内容と実績

- ・今年度テーマ「アフターコロナ鈴鹿探求」

- ・2021年11月20日（土） 10：00～11：30 （会場：B302）

講 座：アフターコロナの観光

（ねらい：地域の資源が観光資源化する現象を理解してもらった上で、アフターコロナの観光について考え、さらに地域への愛着や地域への誇りの醸成について考える）

講 師：国際地域学部 講師 渡辺 敏明

参加人数：16名



- ・2021年11月27日（土） 10：00～11：30 （会場：B102 講義室・模擬保健室）

講 座：新たなコミュニケーションの取り方について考えよう

（ねらい：新型コロナウイルス感染症の流行後のコミュニケーションについて考える）

講 師：こども教育学部 准教授 上田 ゆかり

参加人数：14名



- ・2021年12月11日（土） 10：00～11：30 （会場：国際文化ホール）

講 座：スポーツが地域で果たしている役割とは？

～アフターコロナに向けた新しいスポーツ～

（ねらい：スポーツの価値を理解し、アフターコロナに向けたスポーツの在り方を知る）

講 師：国際地域学部 助教 紺田 俊

参加人数：21名



・2022年2月26日(土) 14:00~15:30 (会場:国際文化ホール)

講 座:新型コロナウイルス終息を願って

ー困難と音楽ー

(ねらい:音楽鑑賞における生涯学習のヒントを
習得する)

講 師:短期大学部 准教授 みやざき 美栄

参加人数:17名



■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望(テーマ)及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

■担当者

担 当 総務・財務課 柳田 佳奈江

連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

事業名：みえアカデミックセミナー

■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々とをつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

■活動内容と実績

- ・2021年8月3日（火）13：30～15：00（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講 座：健康寿命を延ばすための食事術
講 師：短期大学部 教授 梅原 頼子
参加人数：72名



- ・2021年8月11日（水）13：30～15：00（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講 座：日常生活で必要な緊急時の対応ー身近に起こり得る健康障害への緊急処置ー
講 師：こども教育学部 准教授 小川 真由子
参加人数：63名



■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

■担当者

担 当 総務・財務課 柳田 佳奈江
連絡先 メール soumu@suzuka.ac.jp

事業名：あそび広場「すずちゃん」

■活動の目的

大学のⅠ（アイ）棟に設置したプレイルーム（保育室）では、あそび広場「すずちゃん」を開催してきました。地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供します。また、子ども同士、親同士が自然に交流できる環境を作り、子どもの健やかな育ちを支えます。親のニーズに応じ、子育て等に関する情報の提供や相談を通して、親が安心して子育てができる環境を整えてきました。ここで学生は実践活動を展開し、保育の実践力を高める場となっています。

■活動内容と実績

以下の予定でスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、あそび広場は開催できませんでした。

日程表				
No.	前期日程	内容・担当	後期日程	内容・担当
1	4月12日	あそび広場全体会で説明	10月 4日	リトミック②
2	4月19日	担当教員(田口・田中)	10月11日(祝)	こども教育学部1年③身体測定
3	4月26日	担当教員(田口・田中)	10月18日	こども教育学部1年④
4	5月10日	短大こども学2年①ミニ講座	10月25日	こども教育学部1年⑤
5	5月17日	短大こども学2年②	11月 1日	リトミック③
6	5月24日	短大こども学2年③	11月 8日	短大こども学1年①ミニ講座
7	5月31日	こども教育学部2年①	11月15日	短大こども学1年②
8	6月 7日	こども教育学部2年②身体測定	11月22日	短大こども学1年③
9	6月14日	こども教育学部2年③	11月29日	短大こども学1年④
10	6月21日	こども教育学部3年①	12月 6日	リトミック④
11	6月28日	こども教育学部3年②	12月13日	こども教育学部4年①
12	7月 5日	リトミック①	12月20日	こども教育学部4年②
13	7月12日	こども教育学部1年① ミニ講座	12月27日	
14	7月19日(祝)	こども教育学部1年②	1月17日	リトミック⑤
15	7月26日	コンサート	1月24日	お楽しみ会 身体測定

開催期間：毎週月曜日 10 時～12 時（鈴鹿大学Ⅰ棟プレイルーム）

開催回数：通常の広場 22 回、コンサート 1 回、リトミック 5 回（7、10、11、12、1 月）

参加費：通常の広場 無料、リトミック 未就園児親子 1 組 1 回 500 円

担当者：田口鉄久、田中裕子、リトミック：勝井由紀（外部講師）

■今後の計画

自由に地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供することはできませんでした。親子の触れ合いを想定して、学生と共に保育の計画を立案したり、模擬保育を実践しましたが、学生に十分な学びの場を提供することができませんでした。

今後は、コロナ感染拡大予防を徹底したうえ広場を開催し、広場の存在をより多くの人に利用してもらえるように広報し、多くの参加者を学生の学びの成果も高めていきたいと思います。

■担当者

担当者代表 短期大学部 こども学専攻 田中裕子

連絡先 メール y-tanaka@suzuk.ac.jp

事業名：鈴鹿市観光まちづくり委員会

■活動の目的と経緯

鈴鹿市観光まちづくり委員会は、平成 19 年 3 月に策定された「鈴鹿市観光振興基本計画（以下、「基本計画」という）」で示された 3 つの観光振興（乗り物、地域文化、自然資源）およびそれに向けた 5 つの戦略（イメージ戦略、観光情報伝達、観光ルートなどの設定、交通環境や観光施設などの整備、観光振興推進体制の確立）に関する方向性を推進するために設置されたものである。（「鈴鹿市観光振興基本計画」平成 19 年 3 月）

■活動内容と実績

参加団体：鈴鹿大学、アグリロマン鈴鹿、白子まちかど博物館、鈴鹿 MS 友の会、語らい館よこた、みどりの大地、鈴鹿商工会議所、鈴鹿市文化財課、鈴鹿市地域資源活用課、鈴鹿市観光協会

実績：令和 2 年度から、各種団体の行事は軒並み中止となり、本年度に開催される予定であった三重とこわか国体・三重とこわか大会も中止となりました。

鈴鹿大学の活動：例年は大学祭や、市内のイベントで協力体制をしいているが、今年度はすべて中止となりました。鈴鹿大学の授業「鈴鹿学」「モータースポーツ論」では、ご協力いただいています。例）鈴鹿市役所総合政策課、地域資源活用課、鈴鹿市社会福祉協議会、公益財団法人鈴鹿国際交流協会

今年度からの活動：一般社団法人鈴鹿市観光協会と学校法人享栄学園（鈴鹿大学）が、相互の連携強化を図ることにより、鈴鹿市の特産品、観光等の魅力を広く発信し、地域経済の活性化に繋げることを目的に、2021 年 7 月 1 日に「相互連携に関する協定書」を締結しました。その後、キッチンカーをランチタイムに呼ぶイベントを実施した。その後、別項で説明する「すず活」の活動が始まりました。

■今後の計画

今後も、鈴鹿市内の関係団体と協力しながら鈴鹿市の観光まちづくり活動の発展に協力しつつ、本学学生の地域での学びにも活用する計画です。



令和 3 年 7 月 27 日 28 日に実施したキッチンカーランチのチラシ(左)と光景(右)

■担当者

担当 国際地域学部 国際地域学科 地域コース（観光）教授 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：鈴鹿学

■活動の目的と経緯

2015 年、本学は「地域に必要とされる大学」をめざし、「鈴鹿学」を 1 年生の科目としてスタートさせています。「鈴鹿学」は、鈴鹿市の産業や資源、地域的な特徴等について学びレー形式の地域志向科目です。以来、3 学部の教員が担当し、それぞれの専門や学生のニーズ、地域の状況に合わせたテーマを選んで授業を運営しています。講義のテーマは、鈴鹿市の地域資源や地域課題をグローバルな視点で理解を深めながら考察し、その活用や解決策を主体的に考えることで地域貢献や、自らの興味やキャリアを考える機会としています。

■活動内容と実績

①必修／選択科目として 3 学部それぞれの位置づけに応じて、学生は、「鈴鹿学」を受講しています。2021 年前期は、以下をテーマにしました。鈴鹿市について／鈴鹿の暮らしを支える水／鈴鹿抹茶／鈴鹿市の多文化共生社会／鈴鹿市のごみの処理と再利用／鈴鹿市災害ボランティアセンターについて

②その中から、『鈴鹿学』で学生が考案した鈴鹿抹茶レシピを、動画化して鈴鹿抹茶ブランド化研究会の HP に掲載されています。(https://suzuka-matcha.jp/pages/161/) さらに、この鈴鹿抹茶のレシピが鈴鹿の森庭園「しだれ梅まつり」の土産物売り場で紹介されました。

③これらの取組は、機関誌高等教育コンソーシアムみえ News に掲載されました。

詳細は、こちらをごらんください。https://conso-mie.jp/pamphlet/

④2022 年 2 月 三重県立神戸高校「鈴鹿学」にて本学「鈴鹿学」の取組を発表し、「鈴鹿学」で交流することができました。



鈴鹿の森庭園「しだれ梅まつり」で紹介された抹茶レシピ

■今後の計画

「鈴鹿学」は、授業科目であり、そこから地域連携活動に結びつけているという点が大きな特徴です。今後も、「鈴鹿学」を起点に、地域連携活動をさらなる発展に結び付けたいと考えています。

■担当者

担 当 国際地域学部 国際地域学科 地域コース（観光）教授 富本真理子

連絡先 メール m-tomimoto@suzuka.ac.jp

事業名：海外留学支援プログラム

■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられ、学生自らが海外生活を送り、異文化を体験できるよう、協定校への留学を支援します。2019年度より全学部・学科の学生および優秀な留学生の参加を視野に入れて対応するため、中身を大幅に見直すとともに「海外留学支援プログラム Study Overseas Program」へ名称変更を行いました。そして、コロナ禍により、僅かながら実績をあげてきました。

■活動内容と実績（2021年）

韓国・仁川大学に留学したいという学生希望者は、コロナの最中でもその人気ぶりは衰えを見せない。ところが、大学間の合意形成のみならず、国と国の間の水際対策も留学派遣・受け入れる際に考慮されなければならない点です。残念ながら、2021年度は学生らの強い希望を派遣することが成就しませんでした。次年度こそ、若者のエネルギー、学習意欲というものを大切にしたいと考える。

下記の写真は2020年度の派遣実績でした。



（韓国・仁川大学教職員と派遣交換留学生・中田 俊輔氏）

■今後の計画

担当部署と協議し、事業の継続性と健全化を図るほか、オンライン交流事業の可能性を検討します。

■担当者

担 当 教務・学生支援課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁

連絡先 メール i-kaku@suzuka.ac.jp

事業名：国際交流

■活動の目的と経緯

本学の海外における情報発信を図ることにより、入試広報の効果が得られるとともに、それに伴う事業の実施も各種の大学評価システムに応えるものになっています。

■活動内容と実績

本事業における 2021 年度の活動は、オンライン交流の可能性を模索しました。ところが、各国における感染状況や、高等教育機関のほとんども遠隔授業が中心になっている現状を認識し、継続打診を断念しました。昨年度の事例でしたが、協定校・長栄大学日本教育センターの要請に応え、国際オンライン講座に本学教員（郭 育仁）が出講しました。



【在地国際化】線上講座
日本領隊導遊
實務經驗分享

日期：2020-05-05
時間：09:30 ~ 11:30
講師：鈴鹿大學 郭育仁副教授
講座方式：線上講座(GOOGLE MEET)

講座主持人：觀餐系 助理教授 李威嶽
國際處 日本教育中心 / 通識教育中心 / 觀餐系 協辦

<http://icju.tw/r/MQDFq5>

■今後の計画

アフターコロナのなか、国際往来が徐々に再開する見込みです。既存の大学間協定に基づく学生交流事業を慎重に実施するほか、本学の教学内容に沿って、英語圏の協定校の新規開拓や、オンラインによる国際交流の可能性を模索し、魅力的な交流事業を推進します。

■担当者

担 当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁
連絡先 メール i-kaku@suzuka.ac.jp

学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

教員

氏名	派遣先	内容
市野 聖治	愛知教育大学	愛知教育大学経営協議会／学外委員
	鈴鹿市	三重とこわか国体・三重とこわか大会鈴鹿市実行委員会／委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議／委員
富田 寿代	愛知県	愛知県環境影響評価審査会／委員
木之内 秀彦	鈴鹿市、亀山市	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会／委員 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市人権擁護に関する審議会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市個人情報保護審査会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市行政不服審査会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市情報公開審査会／委員
今光 俊介	鈴鹿医療科学大学	臨床研究倫理審査委員会／外部委員
		ヒトゲノム研究倫理審査委員会／外部委員
田中 利佳	鈴鹿市	三重とこわか国体・三重とこわか大会鈴鹿市実行委員会／委員 総務企画専門委員会／委員
	三重県議会	三重県選挙管理委員会／委員
舟橋 宏代	ダイシン物流株式会社	ダイバーシティプロジェクト四日市日本語教室／アドバイザー
富本 真理子	斎宮歴史博物館	運営専門委員
	斎宮歴史博物館	斎宮歴史博物館受付業務委託の総合評価一般競争入札に係る落札者決定基準への指導・助言
	伊勢市	伊勢市都市計画審議会／委員
棧敷 まゆみ	三重県	三重県多文化共生推進会議／委員
竹田 昌平	株式会社タケダ	代表取締役
	三重県生涯スポーツ協会	理事長
	株式会社プロット	取締役
吉田 翔平	三重県野球協議会	普及振興部会
川又 俊則	桑名市	桑名市男女共同参画審議会／委員
高橋 美由紀	愛知県教育委員会	小・中英語の指導と実際／評価・具体的指導方法
	三重県教育委員会	遠隔研修：小学校英語一指導と評価に係る研修Ⅰ／講義・協議
	三重郡菰野町教育研究所	小学校外国語活動・外国語教育／指導・評価

	伊賀市教育委員会	小学校教育外国語活動・外国語教育／指導・評価
田口 鉄久	鈴鹿市	鈴鹿市子ども・子育て会議／委員
	三重県	三重県子ども・子育て会議／委員
	津市	津市子ども・子育て会議／委員
	三重県	三重県社会教育委員会／委員
山路 克文	私立大学情報教育協会	社会福祉学教育 FD/ICT 活用研究委員会／委員 ICT 利用教育改善発表者会運営委員会／委員
	三重県医療保健部	地域ケア会議／活動支援アドバイザー（広域支援員・専門職）
	宮川福祉施設組合	特別養護老人ホームやまびこ荘譲渡先法人選定委員会／委員
水谷 明弘	日本生徒指導学会	理事長・理事
	日本カウンセリング学会	理事長・常任理事
	三重県教育委員会	三重県立津西高等学校学校関係者評価委員会／委員
上田 ゆかり	鈴鹿市	鈴鹿市特定教育・保育施設等重大事故検証委員会／委員
長澤 貴	三重県人権教育研究協議会	三重県子ども福祉部委託事業「人権保育実践研究プロジェクト」／アドバイザー
梅原 頼子	三重県栄養士会	副会長・理事
	三重県栄養士会	監事
	日本栄養士会	評議員
	日本栄養士連盟	評議員
	三重県	公衆衛生審議会歯科保健部会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿抹茶ブランド化研究会／アドバイザー
櫻井 秀樹	三重県教育委員会	学校給食における食品ロス削減等に関する取組のモデル事業推進委員会／委員
清田 雄治	みよし市	みよし市情報公開・個人情報保護審査会／委員 みよし市行政不服審査会／委員
	知立市	知立市情報公開・個人情報保護審査会／委員
	尾三消防組合	尾三消防組合行政不服審査会／委員 尾三消防組合情報公開・個人情報保護審査会／委員
神谷 勇毅	岐阜市立則武小学校	ICT 教育／アドバイザー
みやざき 美栄	鈴鹿市社会福祉協議会	鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会／委員

事務職員

堤 秀紀	四日市商工会議所	四日市商工会議所学生就職PRセンター／参与
丸山 昭一	三重県福祉人材センター	三重県福祉人材センター運営委員会／委員
小掠 恵子	三重県	三重県医療安全推進協議会／委員

2021 年度公開講座一覧

開催日	講座名	内容	受講者数
8月6日(金)	スポーツ選手の食事術 ー成長期の身体づくり・持久力 UPー	成長期のスポーツ選手に必要な身体づくりや持久力 UP などの食事術について学ぶ。	4人

協定先一覧

2022 年 3 月 31 日現在

協定先	内容
放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の編入学生に関する協議書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の学術交流に関する協定
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
四日市大学 他5 高等教育機関	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との災害発生時における相互協力に関する協定書
鈴鹿高等学校 鈴鹿中学校	鈴鹿中学校 ・ 鈴鹿高等学校と鈴鹿大学 ・ 鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
大韓民国順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との教育の交流に関する協議書
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との学術交流に関する協定
NAJC	鈴鹿大学と NAJC の教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学の学術交流に関する協定

三重大学 他 11 高等教育機関 三重県	「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定書
三重大学 他 12 高等教育機関	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学との連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書
蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書
中国文化大学社会科学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
道の駅「紀宝町ウミガメ公園」 紀宝町	国内研修に関する覚書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
啓英高等学校	啓英高等学校と学校法人享栄学園との高大連携に関する協定書
啓英高等学校	鈴鹿大学と啓英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協議書
長栄大学	鈴鹿大学と長栄大学との学術交流に関する覚書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
株式会社日本政策金融公庫津支店 株式会社日本政策金融公庫四日市支店	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書
佛教大学	佛教大学と鈴鹿大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定書
亀山みそ焼きうどん本舗 亀山市 株式会社鈴りん探偵舎	B-1 グランプリで亀山をしてもらおう協定
松阪市 三重県立飯南高等学校 株式会社鈴りん探偵舎	飯南いいな～協定
三重県高等学校商業校長会	三重県商業学校商業校長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書
株式会社タスカル	株式会社タスカルと学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
三重県	鈴鹿大学及び鈴鹿大学短期大学部への三重県営住宅の提供に関する協定書
特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会	インターンシップに関する協定書

NPO 法人三重県生涯スポーツ協会	NPO 法人三重県生涯スポーツ協会とのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社三重スポーツコミュニケーションズ	株式会社三重スポーツコミュニケーションズとのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社 ZIONGROUP	株式会社 ZIONGROUP とのデータサイエンス教育に関する協定書
一般社団法人グローバル愛知	外国人留学生インターンシップの受入に関する覚書
ジャパン HR ソリューションズ株式会社	外国人留学生インターンシップの受入に関する覚書
愛知教育大学	愛知教育大学と鈴鹿大学との教員養成の高度化に関する連携協定書
陸上自衛隊航空学校	鈴鹿大学短期大学部校外実習生受け入れ協力に関する協定書
一般社団法人鈴鹿市観光協会	一般社団法人鈴鹿市観光協会と学校法人享栄学園の相互連携に関する協定書
太門通商株式会社	太門通商株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
日清医療食品株式会社	日清医療食品株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
東海東京ファイナンシャル・ホールディングス株式会社	寄附講座の実施に関する覚書

